

# コスモ石油株式会社

## 2012年度第2四半期決算説明

---

2012年11月1日

代表取締役社長 森川 桂造

1

アスファルト漏洩事故に伴い、千葉製油所は稼働を停止。7～9月のマージンが改善傾向となる中、代替供給コストの増加等が影響し、連結経常損失217億円（在庫評価の影響除きでは、45億円の経常損失）を計上。四半期ごとに見直している繰延税金資産については、再計上を行わず四半期純損失791億円を計上するに至った。

2

2012年度通期業績予想修正の前提となる千葉製油所の再稼働については、2013年1月以降、一部装置の再稼働を皮切りとして、順次、主要装置を立ち上げていく。2013年4月には焼失したLPGタンクの再建を終え、トッパー2系列による生産体制が整う見通し。この稼働前提のもと通期業績予想は連結経常利益250億円（在庫評価の影響除き380億円）、当期純損失740億円と見込む。

3

2012年度の年間配当の見通しに関しては今回の予想修正を総合的に勘案し、誠に遺憾ながら無配とさせて頂いた。

	2012年度 2Q 実績	2011年度 2Q 実績	前年同期比
連結経常利益(損失)	△217億円	276億円	△493億円
在庫評価の影響(※)	△172億円	131億円	△303億円
連結経常利益(損失) (在庫評価影響除き)	△45億円	145億円	△190億円
四半期純利益(損失)	△791億円	28億円	△819億円
①受入原油価格 ②為替	①109.40 \$/B ②80.38 円/\$	①110.38 \$/B ②80.60円/\$	①△0.98 \$/B ②△0.22円/\$

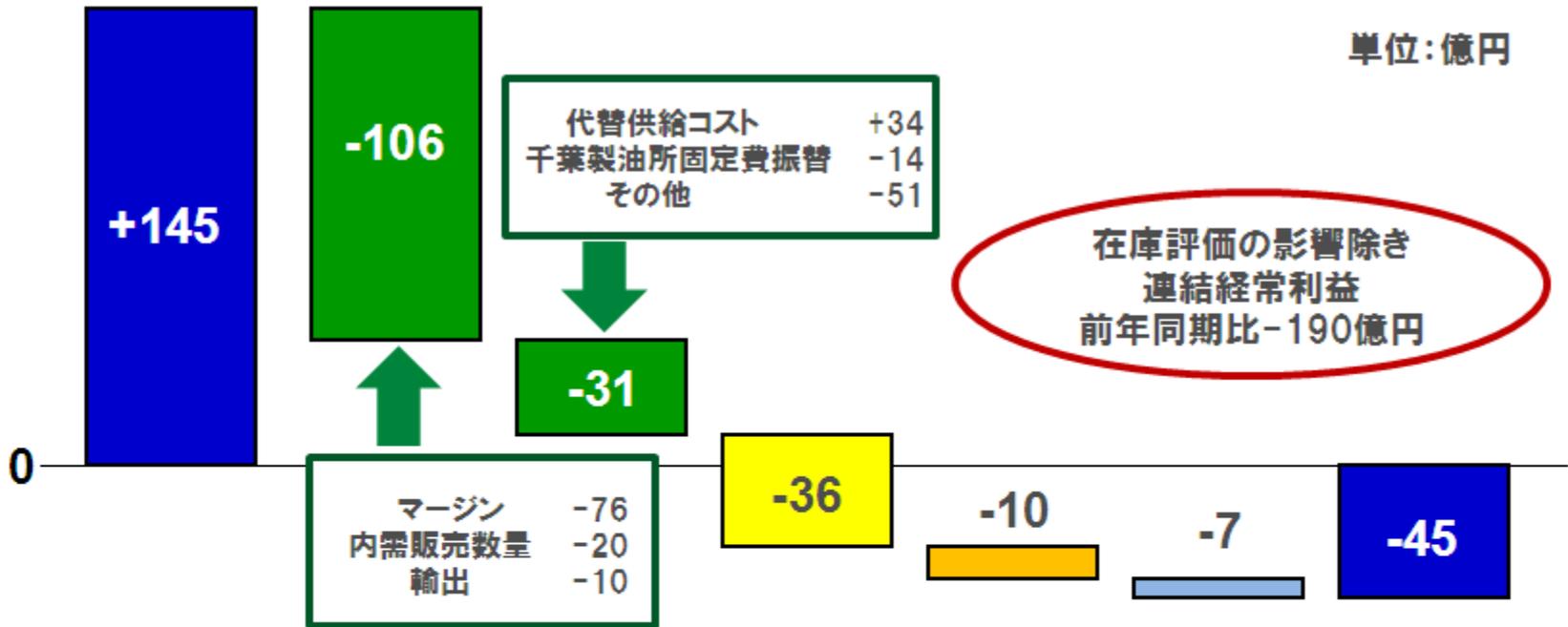
連結経常利益(損失) セグメント別内訳

	2012年度 2Q 実績	2011年度 2Q 実績	前年同期比
石油事業	△377億円*	61億円*	△438億円
石油事業 (在庫評価影響除き)	△207億円	△70億円	△137億円
石油化学事業	△22億円*	16億円	△38億円
石油化学事業 (在庫評価影響除き)	△20億円	16億円	△36億円
石油開発事業	242億円	252億円	△10億円
その他	△60億円	△53億円	△7億円

※在庫評価の影響 ・石油事業 FY2012 2Q △170億円 / FY2011 2Q 131億円

・石油化学事業 FY2012 2Q △2億円

- 減益要因**
- ① マージンの悪化
  - ② 石油開発事業における販売の期ずれによる数量減



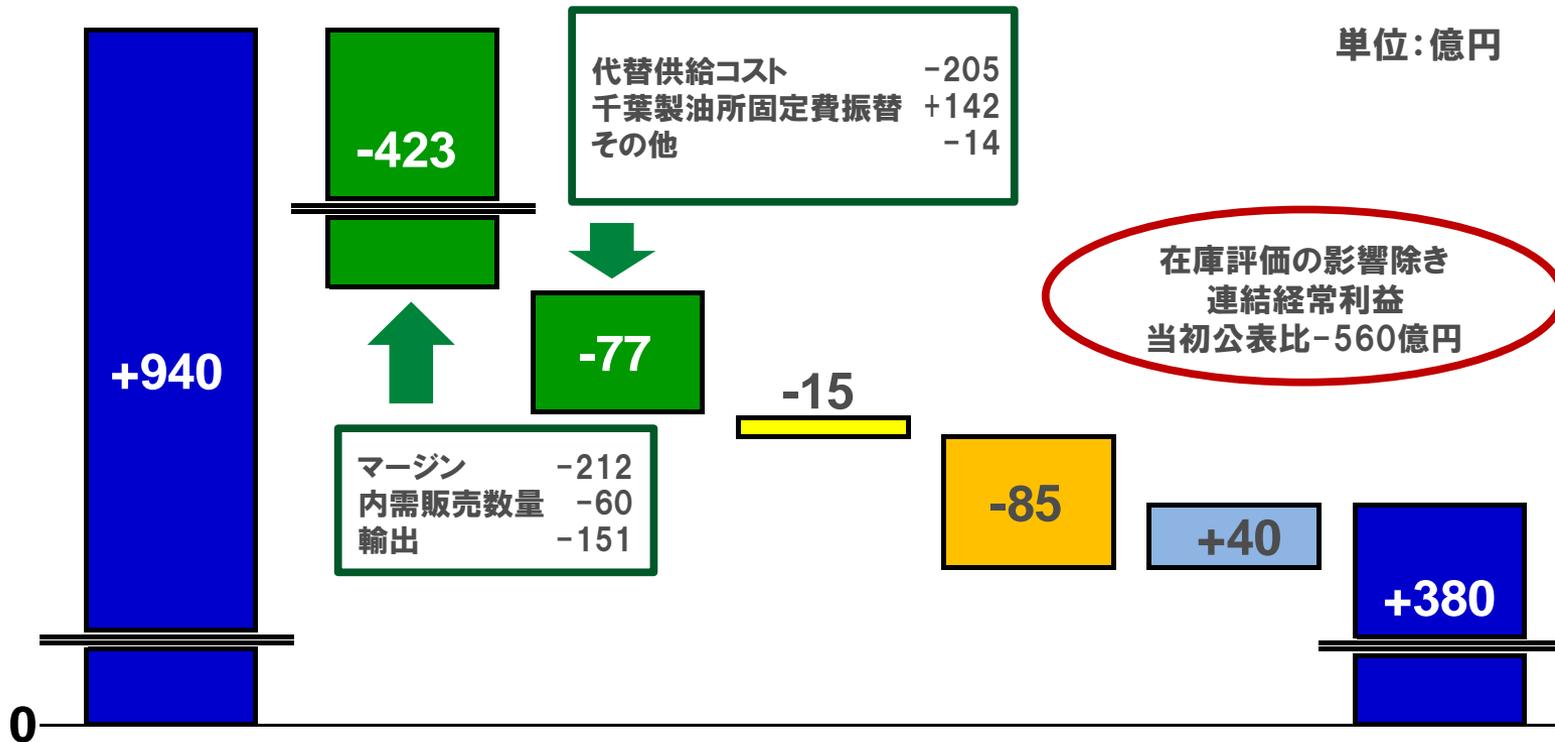
在庫評価の影響除き  
 連結経常利益  
 前年同期比-190億円

	12年度通期予想	12年度当初公表	当初公表比
連結経常利益	250億円	940億円	△690億円
在庫評価の影響	△130億円	0億円	△130億円
連結経常利益 (在庫評価影響除き)	380億円	940億円	△560億円
当期純利益(損失)	△740億円	350億円	△1,090億円
①受入原油価格 ②為替	①108.20\$/B ②78.70円/\$	①115.00\$/B ②80.00円/\$	①△6.80\$/B ②△1.30円/\$

### 連結経常利益(損失) セグメント別内訳

	12年度通期予想	12年度当初公表	当初公表比
石油事業	△330億円	300億円	△630億円
石油事業 (在庫評価影響除き)	△200億円	300億円	△500億円
石油化学事業	10億円	25億円	△15億円
石油化学事業 (在庫評価影響除き)	10億円	25億円	△15億円
石油開発事業	575億円	660億円	△85億円
その他	△5億円	△45億円	40億円

- 減益要因**
- ① マージン前提の下方修正
  - ② 千葉製油所の稼働停止に伴う輸出数量減と代替供給コスト増
  - ③ 石油開発事業における原油価格前提の下方修正



当初公表	2012年度 通期業績予想					
在庫評価 除き 経常利益	石油事業		石油化学 事業	石油開発 事業	その他	在庫評価 除き 経常利益
	マージン ・ 販売数量	その他				

2013年1月より順次、主要装置を稼働開始。

1 2013年1月  
常圧蒸留装置、直接脱硫装置、水添脱硫装置が稼働開始

2 2013年4月  
LPGタンク再建完了、使用を開始

**石油開発・石油化学・新規事業においては、  
第4次連結中期計画において策定した成長投資が順調に進捗**

<p><b>【石油開発事業】</b>  産油国との関係を 活かした ポートフォリオ拡大</p>	U.A.E	既存油田の利権更新、ヘイル新鉱区の利権協定締結。
	カタール	A構造南部油田における生産を開始。
	豪州	AC/P4鉱区において、探鉱井の掘削を計画。
<p><b>【石油化学事業】</b>  石化シフトによる 製油所競争力向上</p>	MX	四日市製油所のMX製造装置が稼働を開始。
	PX	HCPのPX製造装置は、当初計画よりも前倒しとなる2012年11月に完工。翌年、2月より商業生産。
<p><b>【新規事業】</b>  環境・新エネ事業 の拡大</p>	風力	エコ・パワーは、メンテナンス力の強化により黒字体質が定着。固定価格買取制度導入も追い風となり、新規サイトの開発に取り組む。

「持続的成長に向けた基盤を築く5年間」との位置付けのもと、  
収益力・成長力の強化、および財務安定性の確保に取り組む。

石油事業における  
収益安定化の実現

第4次中計で積み残した  
課題の早期解決

石油開発・石化・新規事業  
における「実り」を収穫

第4次中計で実行済み戦略  
投資の確実な回収

グループの強みを生かした  
成長力強化

ポートフォリオ戦略の拡充  
によるグループ価値創造

- ① 製油所の安定操業
- ② 聖域なき合理化を実行
- ③ 坂出製油所閉鎖による  
固定費の削減とCFの改善
- ④ 国内販売ビジネスモデルの  
深化、変革

- ① ヘイル鉱区生産開始
- ② HCPの新設PXプラント  
による生産開始
- ③ エコ・パワーの収益拡大

- ① IPIC、HDOとの協力関係  
のもと共同案件を模索

第4次中計までの大型の投資案件が一段落する中、石油事業の収益安定を実現し、石油開発・石油化学・新規事業での投資回収を確実に実行することで財務体質の改善を進める。財務体質の改善とともに、2013年度の復配に努める。

## 補足資料

- P9 : 【12年度2Q実績】 連結損益の概要 前年同期比
- P10 : 【12年度2Q実績】 連結貸借対照表の概要
- P11 : 【12年度2Q実績】 原油コスト・処理量、稼働率、原油生産数量
- P12 : 【12年度2Q実績】 販売数量
- P13 : 【12年度2Q実績】 セグメント別実績:前年同期比
- P14 : 【12年度2Q実績】 連結 設備投資の概要
- P15 : 【12年度2Q実績】 人員数、油槽所数、SS数、カード枚数推移
- P16 : 【12年度通期業績予想】 セグメント別予想・連結 設備投資の概要:当初公表比
- P17 : 【12年度通期業績予想】 セグメント別予想:前年比、感応度
- P18 : 【12年度通期業績予想】 連結経常利益（在庫評価影響除き） 前年比増減分析
- P19 : 【ご参考】 軽油輸出の実績・マージン環境
- P20 : 【ご参考】 石油化学事業 アロマ市況①
- P21 : 【ご参考】 石油化学事業 アロマ市況②

※最新の「データブック」および「用語集」は以下URLのIRサイトに掲載しています。

<http://www.cosmo-oil.co.jp/ir/financial/index.html>

(単位:億円)

	12年度 第2四半期	11年度 第2四半期	前年同期比
売上高	14,492	14,535	△ 43
売上原価	14,089	13,635	454
販管費	590	625	△ 35
営業利益	△ 187	275	△ 462
営業外損益	△ 30	1	△ 31
経常利益	△ 217	276	△ 493
特別損益	△ 125	△ 119	△ 6
法人税等	425	110	315
少数株主利益	24	19	5
四半期純利益	△ 791	28	△ 819

【参考】

在庫評価の影響	△ 172	131	△ 303
在庫評価除き 営業利益	△ 15	144	△ 159
在庫評価除き 経常利益	△ 45	145	△ 190

	実績 (12年9月末)	前期末 (12年3月末)比	
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 283	-	単位:億円
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 347	-	
財務活動によるキャッシュ・フロー	631	-	
期末のキャッシュ残高	1,239	15	
	実績 (12年9月末)	前期末 (12年3月末)	増減
総資産	15,510	16,751	△ 1,241
純資産	2,509	3,374	△ 865
自己資本	2,280	3,169	△ 889
自己資本比率	14.7%	18.9%	4.2ポイント悪化
有利子負債	7,916	7,212	704
有利子負債依存度	51.0%	43.1%	7.9ポイント悪化
D/ELシオ(倍)	3.5	2.3	1.2ポイント悪化
ネット有利子負債※	6,537	5,988	549
有利子負債依存度	42.1%	35.7%	6.4ポイント悪化
D/ELシオ(倍)	2.9	1.9	1.0ポイント悪化

※有利子負債総額から現預金および短期運用資金残高を控除したもの

**【1】原油コスト・原油処理量・稼働率**

		12年度2Q	11年度2Q	前年同期比	
受入原油	原油(FOB) \$/BBL	109.40	110.38	△ 0.98	—
	為替レート ¥/\$	80.38	80.60	△ 0.22	—
	受入原油代(税込) ¥/KL	58,717	59,462	△ 745	—
原油処理	原油処理量千KL	10,384	9,174	1,210	113.2%
	トッパー稼働率(CD)	56.2%	49.7%	6.5%	—
	トッパー稼働率(SD)	82.1%	85.6%	△ 3.5%	—

※SD: 定期整備等の影響を除いた稼働率

**【2】原油生産数量**

		12年度2Q	11年度2Q	増減率	出資比率
開発会社 生産数量 (B/D)	アブダビ石油	21,029	22,634	92.9%	63.0%
	カタール石油開発	7,415	6,072	122.1%	75.0%
	合同石油開発	13,332	9,768	136.5%	45.0%

※生産量: プロジェクト会社の期中平均生産量。(各社12月決算会社のため生産期間は1-6月)

(千KL)

		2012年度 2Q実績	2011年度 2Q実績	増減	前年同期比	2012年度 通期予想 (当初公表比)	2012年度 通期予想 (前年比)
内需燃料油	ガソリン	3,042	3,120	△ 78	97.5%	96.1%	96.6%
	灯油	510	557	△ 47	91.7%	96.6%	94.8%
	軽油	2,207	2,228	△ 21	99.1%	96.0%	94.7%
	A重油	876	941	△ 65	93.0%	101.1%	91.5%
	4品計	6,635	6,846	△ 211	96.9%	96.8%	95.0%
	ナフサ	3,012	3,247	△ 235	92.7%	93.2%	100.1%
	ジェット	227	236	△ 9	96.1%	96.5%	99.7%
	C重油	1,428	998	430	143.1%	107.8%	121.6%
	(内 電力C重油)	947	412	535	229.8%	117.8%	149.8%
	計	11,302	11,327	△ 25	99.8%	97.1%	99.1%
中間留分輸出	軽油	45	98	△ 53	46.1%	14.3%	148.3%
	灯油/ジェット	0	64	△ 64	0.0%	0.0%	0.0%
	計	45	162	△ 117	27.8%	10.8%	102.8%
保税販売他	ジェット	882	807	75	109.3%	105.3%	108.9%
	C重油	259	278	△ 19	93.3%	103.7%	104.4%
	その他	542	213	329	254.8%	101.4%	172.2%
	計	1,684	1,298	386	129.7%	104.1%	118.5%
バーター・その他	4,140	4,602	△ 462	90.0%	93.9%	89.5%	
総販売数量	17,171	17,389	△ 218	98.7%	92.5%	97.9%	

## 12年度2Q実績 前年同期比

単位：億円

12年度2Q実績	売上高		営業利益		経常利益		経常利益 (在庫評価・低価法影響除き)	
		前年同期比		前年同期比		前年同期比		前年同期比
石油事業	14,243	△ 15	△ 332	△ 415	△ 377	△ 438	△ 207	△ 137
石油化学事業	133	△ 12	△ 2	△ 8	△ 22	△ 38	△ 20	△ 36
石油開発事業	341	△ 60	215	△ 29	242	△ 10	242	△ 10
その他	333	75	△ 1	2	8	6	8	6
調整額	△ 558	△ 31	△ 67	△ 12	△ 68	△ 13	△ 68	△ 13
合計	14,492	△ 43	△ 187	△ 462	△ 217	△ 493	△ 45	△ 190

※ 石油事業の在庫評価影響額は△170億円(前年同期比△301億円)

※ 石油化学事業の在庫評価影響額は△2億円(前年同期比△2億円)

## グループ会社(セグメント別)

石油事業 : コスモ石油、コスモ石油販売、コスモ石油ガス、コスモ石油ルブリカンツ他

石油化学事業 : コスモ松山石油、CMアロマ、丸善石油化学(持分法適用会社)、Hyundai Cosmo Petrochemical(持分法適用会社)

石油開発事業 : アブダビ石油、カタール石油開発、合同石油開発(持分法適用会社)他

その他 : コスモエンジニアリング、コスモトレードアンドサービス、エコ・パワー他

## 設備投資・減価償却費等

【12年度2Q実績】

単位:億円

	12年度2Q実績	前年同期比
設備投資	152	35
減価償却費等	227	△ 27

## 設備投資 セグメント別

【12年度2Q実績セグメント別前年同期比】

単位:億円

	12年度2Q実績	11年度2Q実績	前年同期比
石油事業	107	59	48
石油化学事業	3	3	0
石油開発事業	47	56	△ 9
その他	2	2	0
調整額	△ 7	△ 3	△ 4
合計	152	117	35

## 【1】人員数推移

	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度2Q
石油単体	1,718	1,916	1,957	2,064	2,180	2,135	2,025	1,950
グループ	3,451	3,335	3,299	3,269	3,325	3,268	3,098	2,966

※各年度3月末時点

※グループ:(08年度まで)石油単体+出向 (09年度以降)石油単体+出向+試傭員+シニア社員

## 【2】油槽所数推移

	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度2Q
DT数	38	38	38	38	36	35	35	35

## 【3】運営者別SS数推移

	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度2Q
販社	1,190	1,122	1,104	1,023	1,025	967	939	927
特約店	3,361	3,237	3,021	2,890	2,743	2,642	2,559	2,463
固定式SS計	4,551	4,359	4,125	3,913	3,768	3,609	3,498	3,390
可搬式SS	95	57	53	47	43	36	34	33

※05年度までは12月末時点とし、06年度からは3月末時点

## 【4】セルフSS数推移(固定式SSの内数)

	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度2Q
販社	370	463	507	551	575	548	570	569
特約店	256	326	360	404	429	455	437	420
合計	626	789	867	955	1,004	1,003	1,007	989
セルフSS数比率	13.8%	18.1%	21.0%	24.4%	26.6%	27.8%	28.8%	29.2%

## 【5】コスモ・ザ・カード枚数推移(06年度よりオーパスも含む数値)

	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度2Q
有効枚数	255	280	305	335	357	367	381	391

(万枚)

12年度通期セグメント別予想(当初公表比)

単位：億円

	売上高		営業利益		経常利益		経常利益 (在庫評価・低価法影響除き)	
		当初公表比		当初公表比		当初公表比		当初公表比
石油事業	29,700	△ 2,900	△ 240	△ 615	△ 330	△ 630	△ 200	△ 500
石油化学事業	310	△ 170	10	0	10	△ 15	10	△ 15
石油開発事業	860	△ 120	530	△ 100	575	△ 85	575	△ 85
その他	820	△ 30	25	5	40	10	40	10
調整額	△ 1,290	120	△ 45	30	△ 45	30	△ 45	30
合計	30,400	△ 3,100	280	△ 680	250	△ 690	380	△ 560

設備投資・減価償却費等

【12年度今回予想】

単位：億円

	今回通期予想	当初公表比
設備投資	920	△ 27
減価償却費等	460	7

設備投資 セグメント別

【12年度通期セグメント別当初公表比】

単位：億円

	今回通期予想	当初公表	当初公表比
石油事業	311	274	37
石油化学事業	10	9	1
石油開発事業	586	641	△ 55
その他	25	35	△ 10
調整額	△ 12	△ 12	0
合計	920	947	△ 27

12年度通期セグメント別予想(前年比)

単位：億円

	売上高		営業利益		経常利益		経常利益 (在庫評価・低価法影響除き)	
		前年比		前年比		前年比		前年比
石油事業	29,700	△ 856	△ 240	△ 368	△ 330	△ 410	△ 200	△ 28
石油化学事業	310	16	10	1	10	△ 11	10	△ 11
石油開発事業	860	△ 16	530	12	575	55	575	55
その他	820	104	25	10	40	11	40	11
調整額	△ 1,290	55	△ 45	△ 11	△ 45	△ 9	△ 45	△ 9
合計	30,400	△ 697	280	△ 356	250	△ 364	380	18

原油・為替前提

受入原油価格(通期) : 108.20\$/B 為替(通期) : 78.70円/\$

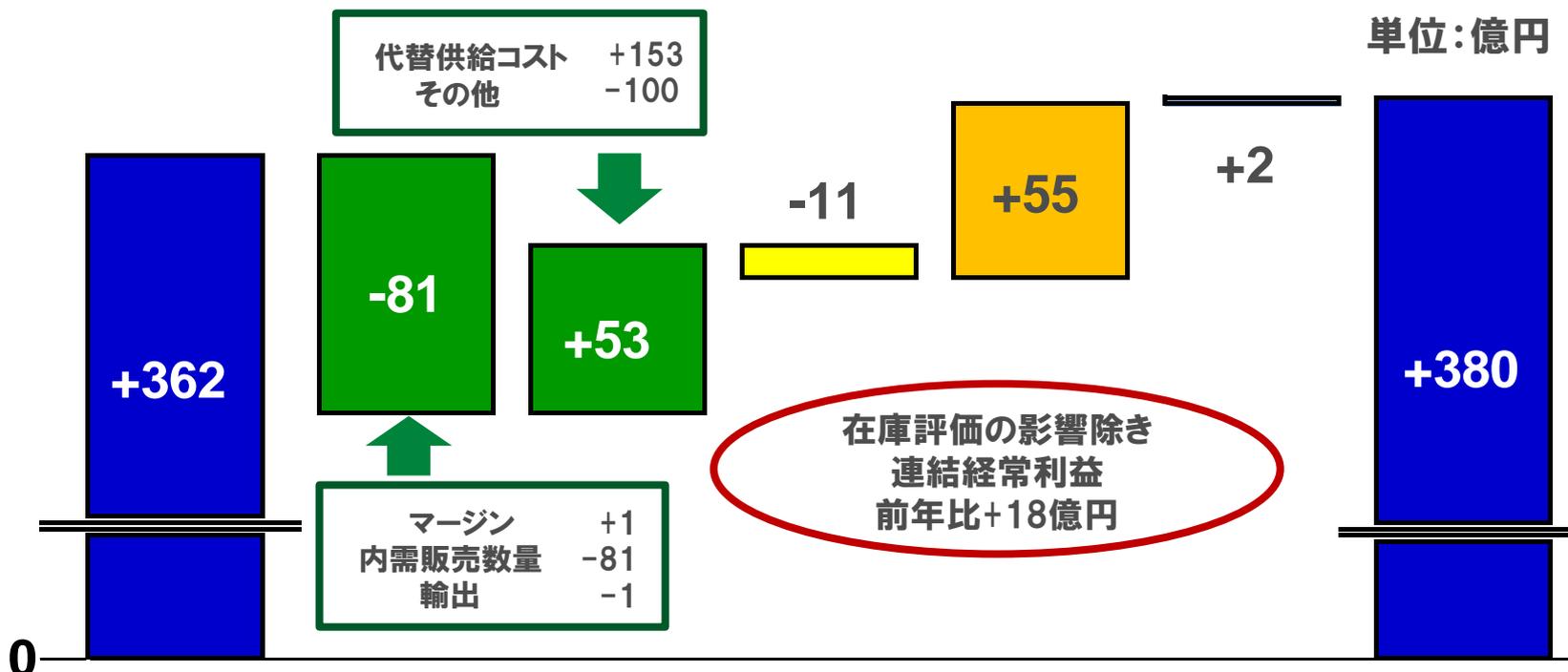
感応度

	石油事業	石油開発事業
原油 +1 \$/B	+21 億円	+3 億円
為替 +1円/\$	+29 億円	+4 億円

※上記は原油価格・為替変動の在庫評価益、自家燃コスト、タイムラグに対する影響(低価法の影響は考慮せず)

※当感応度の期間については石油事業が2012年10月～2013年3月までの6ヶ月間、石油開発事業が2012年10月～12月の3ヵ月間で試算した数字

単位：億円



在庫評価の影響除き  
連結経常利益  
前年比+18億円

2011年度  
実績

2012年度 通期業績予想

在庫評価  
除き  
経常利益

石油事業  
マージン・  
販売数量  
その他

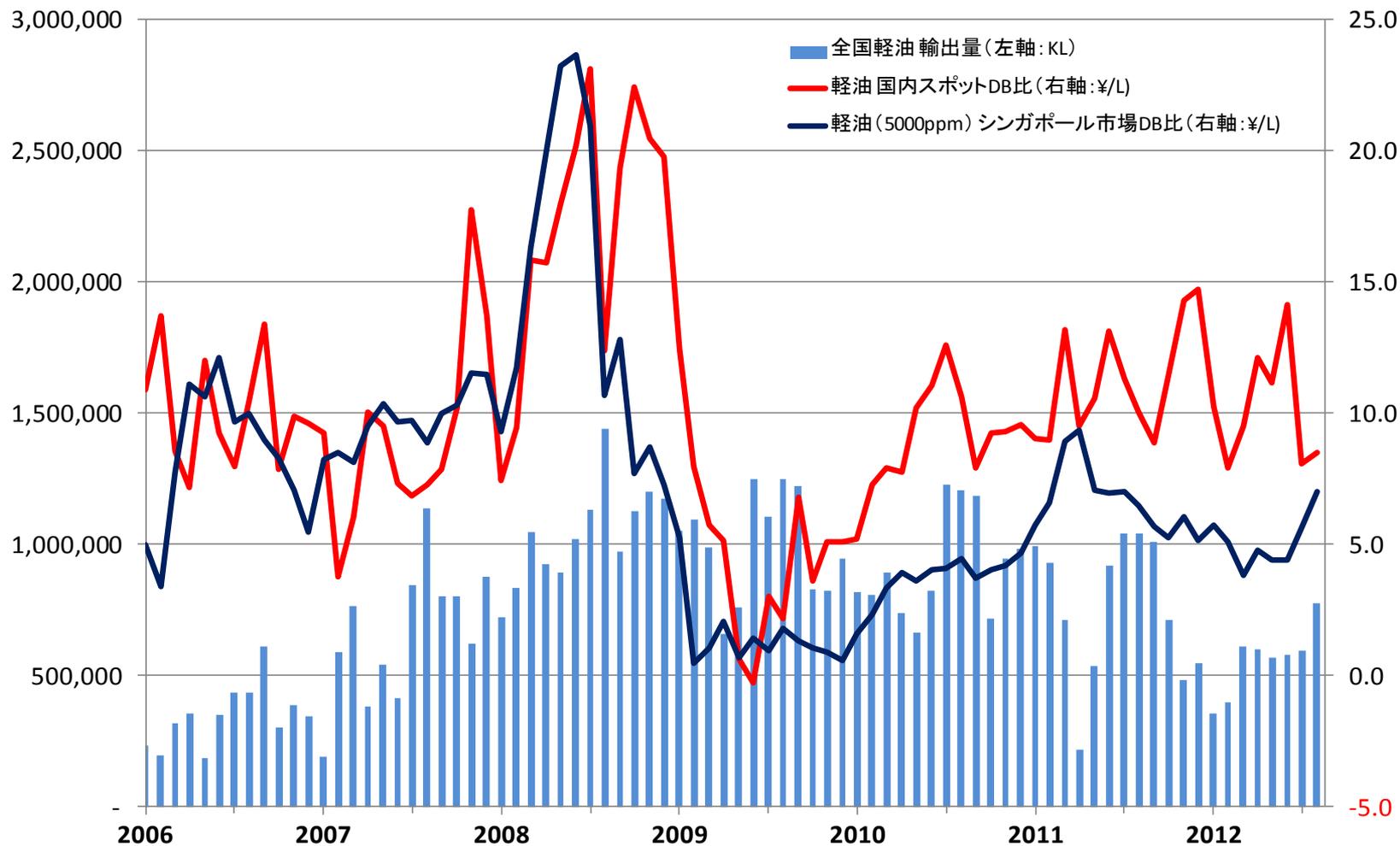
石油化学  
事業

石油開発  
事業

その他

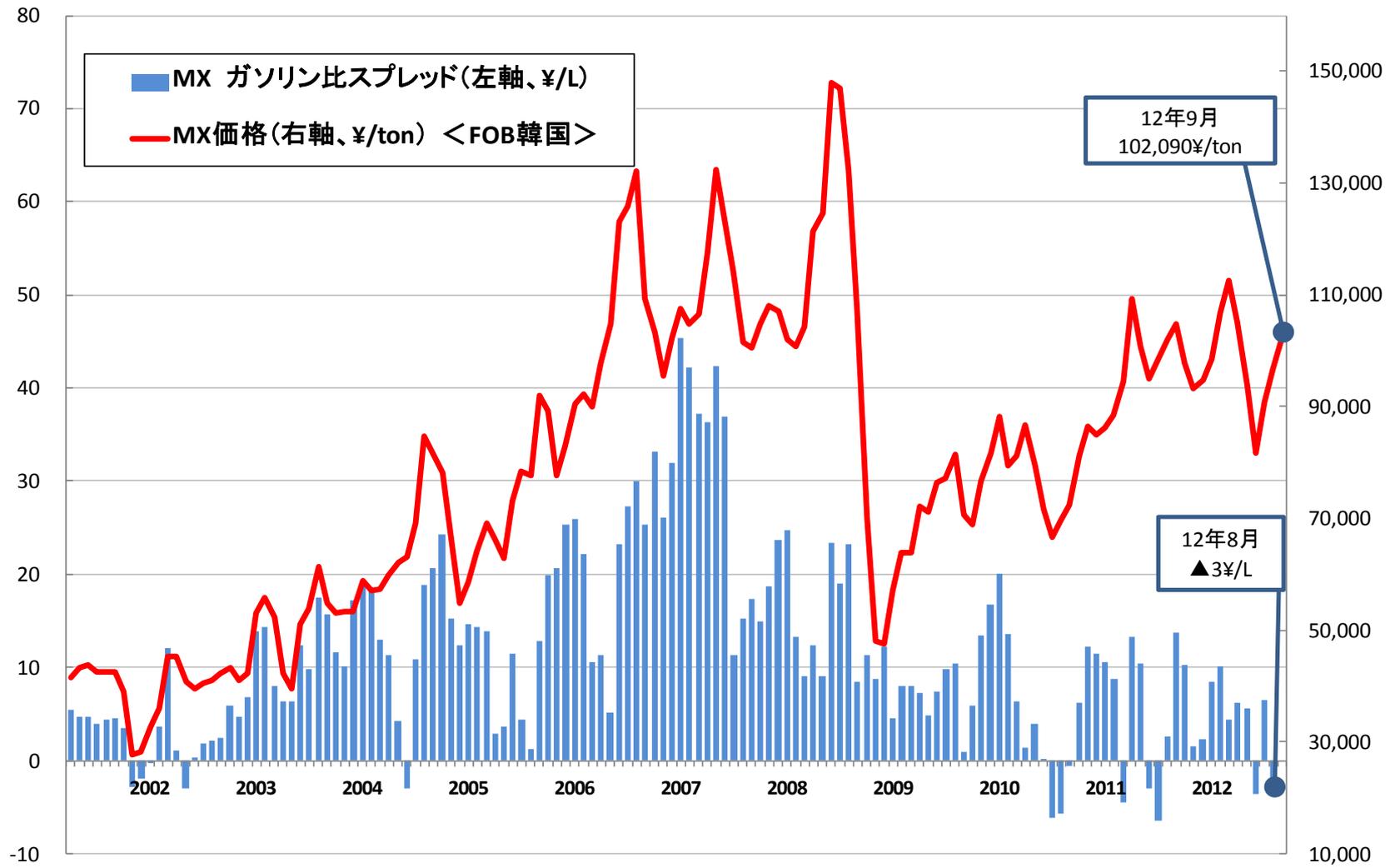
在庫評価  
除き  
経常利益

軽油の輸出量と国内／海外マージンの推移

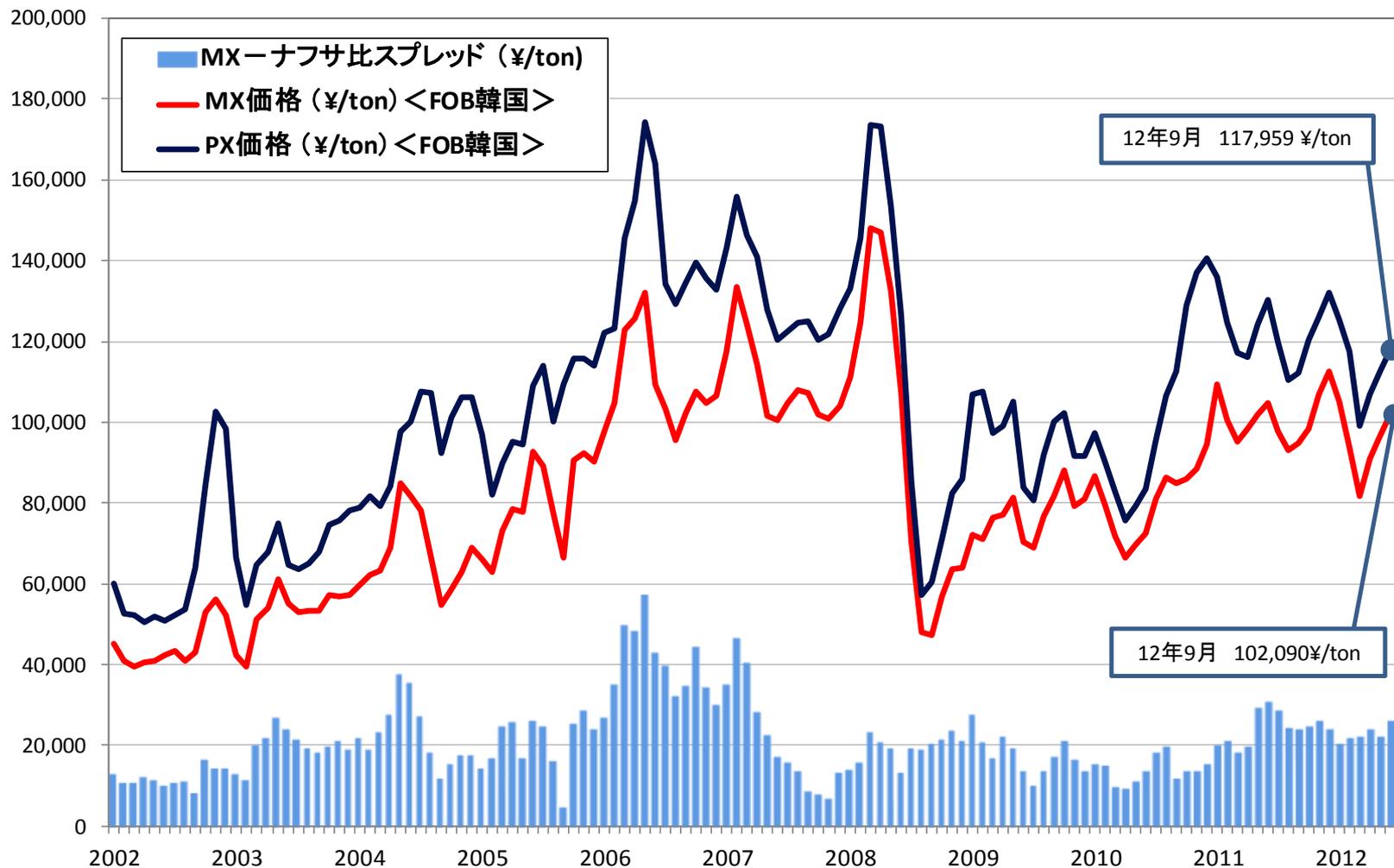


※輸出量実績の公表データは2012年8月が最新情報

【MX市況】MX-ガソリン比スプレッドの推移



【PX・MX市況】MX－ナフサ比スプレッドの推移



## 見通しに関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。